

令和4年度 学校評価実施報告書

学校名（西陵中学校）

教育目標

《正しく 仲よく 遅しく》

基盤的な学力と自ら律する力を備えた、調和のとれた生徒を育成する

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基盤的な学力の定着を目指して、教えるから学ぶ授業改善やG I G Aスクール構想を活用した授業改善。家庭学習習慣定着や読解力をつけるために読書の取組をすすめた。数字に表れている検査結果からみる学力は、全市平均と比較すると厳しい結果であったが、教科によっては平均を超えるものもあった。どの学年でも中低位層が多いことが大きな要因となり平均点は低かった。授業には落ち着いて取り組めているが、生徒が自ら主体的な学びにはまだ不十分である。授業と家庭学習をつなげる取組が必要である。学力向上を重点におくことを継続する。 ・生徒たちは社会ルールを遵守して、思いやりの気持ちをもって行動できている。コロナ禍ではあったが、行事等に工夫して取り組み、学年・学級の特別活動や道徳の指導も協働して計画的に取り組むことができ、心や体をバランスよく育成することは概ね達成することができた。 ・不登校生徒や遅刻欠席の多い生徒に対して、担任を中心に家庭訪問や放課後の学習等の取組はできているが、十分な成果はあがっていない。SC や総合育成支援員等との連携をより深め、チーム学校での取組を充実させて取り組んでいく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度小中一貫教育校開校に向けて、小中学校で更なる連携を強化してほしい。 ・コロナ禍にあって、行事の縮小など、やむを得ないものの残念だった。 ・授業にはよく取り組めているようで、今後も規律を保って授業を大切にしていく。家庭学習を習慣づける指導の工夫が必要だろう。学校と家庭の連絡をていねいに続けていくようお願いしたい。学校運営協議会や地域で、できる事や要望があれば言ってもらい協力していきたい。 ・生徒数が減少して小規模となり、部活動等は少人数で困っていると思う。頑張っている生徒が多いのでしっかり指導してほしい。 ・学校が楽しいと感じている生徒や保護者が多くて安心している。学校に来にくい生徒や家庭への支援を大切に続けてほしい。 ・家庭と連携して、不登校生徒が学校に行けるように取り組んでほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月24日	学校運営協議会
最終評価	令和5年2月16日	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

授業改善と家庭学習の習慣化を通して、基盤的な学力の定着を図る。

具体的な取組

- ・教科会を積極的に活用し、授業、家庭学習、基礎テスト、単元テスト、定期テスト、テスト前学習がつながりを持った効果的な取組になるようにカリキュラム（単元計画表）を作成する。
- ・子どもたちにできる喜びを実感させる継続的な小テストを実施する。
- ・GIGAスクール構想（充実期）をもとにして、教科会を積極的に行い、タブレット端末を効果的に活用するより良い授業改善に努める。
- ・タブレット端末を活用した家庭学習により、家庭学習習慣の定着を図る。
- ・授業の始めに「今日の目標」を提示し、授業の終わりに「今日の振り返り」を行う。
- ・授業規律の確立を図る。

生徒はベル着、教師はベル授業開始を守る。

授業の最初と最後にあいさつをきちんと行う。その際、服装も整える。

机には必要なものだけを出す、忘れ物がないか確認、忘れた場合どうするのか指示を出す。

- ・朝読書に継続して取り組む。

学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査の結果等を分析・活用して、授業改善をすすめる。

- ・授業分析シートを活用して、授業改善を行う。
- ・研究授業を実施する。（5月小中合同研修、11月学年別研修、2月合同研修）
- ・学習指導要領で3観点の評価になり、評価・評定に関する研修を一層進める。（特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価）

5科の実施、終学活時に指示、翌朝確認、未実施者の確認と手立て

- ・授業内でも、家庭学習につながる課題を積極的に実施する。
- ・夏季休業中・定期テスト前の学習会を計画的に実施する。
- ・9年間を通した学力の向上をめざした小中一貫教育を推進するため、合同研修を行う。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・学習確認プログラム及び全国学力・学習状況調査の分析結果。
- ・授業分析シートの活用、校内研究や教科会による授業改善の取組。
- ・生徒に対する授業アンケート（生徒による授業評価）の結果。
- ・生徒及び保護者アンケートの結果。

「毎日家庭学習プリントに取組んでいますか」

「家庭学習に取り組んでいますか」

「読書の習慣が身についていますか」

「タブレット端末を使った授業はわかりやすいですか」

中間評価

各種指標結果

- ・学習確認プログラムにおいて、3年生は、全市と比較した場合の指数は100に対して、総合で82と全市平均を大きく下回っているが、理科は指数90を超えており、2年生は、総合指数は94となっており、全市平均を下回っているが、国語と理科は全市平均を上回っている。1年生は、参考資料からみると厳しい状況にある。どの学年も、中低位層が多いことが、平均値に強く影響している。

- ・全国学力・学習状況調査において、国語と数学が全国平均より下回った。理科は指数 105 で全国平均を上回っている。理科の授業では思考力などつける授業ができている。
- ・9月に行った研究授業週間で授業スタイルなど授業改善につながる研究を進めることができた。
- ・生徒・保護者アンケートは、重要度と実現度に答える形式にして、意識の把握・分析に努めている。
- ・アンケート項目「家庭で学習する習慣が身についていますか」に対する肯定的回答は生徒 48%、保護者 58%であった。どの項目も重要度は 90%を超えており、実現度になると低くなる。
- ・タブレット端末を活用することで、意欲的に学習する生徒が多くなった。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習習慣定着のため、家庭学習・基礎テスト・定期テストを連動しながら実施した。しかし、期待するほどの効果があげられていない。 ・2、3年生は学年、学級も、ベル着をはじめ授業中の不規則発言や私語がほとんどなく、熱心に授業に取り組んでいる。1年生については、学習規律に課題がある。 ・学習確認プログラムの結果は、厳しい状況にある。中低位層が多いので基礎基本の定着への取組が必要な一方で、上位層を増やす授業改善も必要である。 ・授業や定期テストに記述式問題を出題するなど、全教科で意識して取り組んでいる。 ・各教科の個人の教員では、それぞれ工夫をしているが、生徒が能動的に学習に取り組める授業の基本スタイルを確立する。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別生徒の理解状況を細かく確認し、必要な支援に取り組み、基礎基本の定着を図る。 ・家庭学習の取組を継続し、授業と家庭学習を繋げる工夫を進め、家庭学習習慣の確立を図る。 ・教員の授業力向上のため、理科で行っている授業スタイルを他教科の教員も取り入れて授業改善を行っていく。また、本校の授業スタイルを確立していく。 ・教科会の活性化を図り、授業分析シートの効果的な活用を工夫する。 ・授業における生徒の主体的な活動の場を増やし、生徒が意欲的に取り組める授業づくりを進める。 ・図書館教育の推進に努め、教科での図書館活用等を通して、読書への関心や意欲を高めていく。 ・効果の上がらない取組は見直す必要がある。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習や家庭学習課題の内容と実施状況、生徒・保護者アンケートの結果。 ・教科会の活動内容と各教科における授業改善の取組、個々の教員の指導力の向上状況。 ・授業スタイルの形態の徹底。 ・図書館の活用状況。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が読書ができるように様々な工夫をしてほしい。 ・地域の図書館も活用し、読書量や時間をふやして、読解力をつけてほしい。 ・探究的活動を通してコミュニケーション能力をつけてほしい。 ・9年間を見据えて、小中の取組を連携してすすめていきましょう。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・アンケート項目「家庭で学習する習慣が身についていますか」に対して肯定的回答は生徒 51%、保護者 41%であった。・時間割内に教科会の時間を設定し、教科会の活性化と授業改善をすすめた。各教科の取組を全体化・見える化して、他教科や個々の教員の取組に活かすことまではできなかつた。・授業スタイルの形態を統一することで、生徒にわかりやすい授業に取り組んだが、教科によっては不十分だった。・昼休みの図書館開館時の人数は増加したが、家庭での読書習慣までにはいたっていない。コロナ禍もあり、授業での図書館での活用が進まなかつた。	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・毎日の家庭学習課題の取組は、学校の取組として年間を通じて展開できた。タブレット端末を活用して家庭学習ができるようになった生徒が増えている。・基礎基本をすべての生徒に定着させる目的で、定期テスト前の基礎テストを実施した。・小中一貫教育における授業の交流ができた。・授業改善や学力低位生徒への支援が、個々の教員に頼るところが大きく、その結果、学習確認プログラムの結果も、学年や教科による差が大きい。学校としての学力状況は厳しい。教科会で生徒一人一人の実態を把握し、授業改善につなげていく。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・年度当初に、教育目標、生徒・保護者の実態把握、具体的な生徒につけたい力等について明らかにして共通理解を深め、教職員の授業改革の意識を高める。「主体的・対話的で深い学ぶ」につながる授業をするための研修をさらにすすめる。・教科会を中心に、P D C A サイクルで日々の授業の充実・改善をすすめる。・家庭学習習慣の定着に向けて、授業と家庭学習を繋げる工夫を各教科ですすめ、全体調整等を研究部で行う。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・一人一台のタブレットの導入で、ICT 機器を授業で積極的に取り入れている状況を説明して理解いただいた。効果的な、どんどん有効に活用していってほしい。・小学校では総合的な学習の時間等で、地域の人々と共に学校に協力しているが、中学校への具体的な支援の検討をすすめましょう。・小中一貫教育校の創設を念頭に置いて、小学校から 9 年間の学習の継続性や発展性について考えて、整えていくことが大事だろう。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>人権尊重の精神を基盤に、自他を大切にする態度の育成と自己肯定感を高める。</p>	
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none">・自己肯定感を高めるために、授業中や生徒会活動や部活動など様々な場面で、積極的に褒め、その取組を校舎や教室に見える化する。・生活の 3 原則『挨拶・時間・掃除』を通して、規範意識のさらなる育成を図る。・自主的、自発的な生徒会活動をより充実させ、生徒同士の絆を深め、生徒の自己有用感を向上させる。

- ・見逃しのない生徒の観察を行い、いじめ防止に向けた取組指針を徹底する。
- ・道徳授業の持ち回り授業の実施等による指導の充実を図る。
- ・職業調べや高校調べの取組を通して、将来展望を持ち、キャリア教育を推進する。
- ・人が環境を変え、環境が人を育てることを意識した校内環境整備に努める。
- ・不登校生徒が社会で生き抜くために、保護者と連携しながら、一人一人にあった別室指導や家庭訪問指導を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒及び保護者アンケートの結果。
 - 「挨拶がしっかりとできていますか」
 - 「相手の気持ちを考えて行動していますか」
 - 「ルールを守ろうとしていますか」
- ・道徳授業の状況と生徒の振り返りや感想等の活用に関する教員の認識状況。
- ・人権学習の取組状況と生徒の感想等。

中間評価

各種指標結果

- ・アンケート結果は、肯定的回答が、「挨拶がしっかりとできていますか」については生徒 81%・保護者 77%、「相手の気持ちを考えて行動していますか」は生徒 91%・保護者 87%、「ルールを守ろうとしていますか」が、生徒 86%・保護者 91%であった。
- ・道徳授業では、生徒の振り返りに対して、道徳だよりにまとめるなど、丁寧に対応している。
- ・人権学習の指導案を、学年ごとに研修をすすめながら作成作業を行っている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・「相手の気持ち」や「ルールを守る」などの規範意識の大切さを理解している。
- ・授業規律や提出物などのケジメに反映させていく必要がある。
- ・心を育てるためには、校内の環境整備も必要である。
- ・道徳授業に関しては、学年教員で担任・副担任が分担して、授業づくりや評価をすすめており、協力した実施ができている。内容や評価について、研修をすすめていく。
- ・生徒会活動に生徒は意欲的に取り組んでおり、特に環境委員長が積極的で、環境委員会で毎朝花壇の手入れを行っている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・生徒会活動を中心に学校生活を改善する取組を進めていく。
- ・人権学習や道徳を通して、生徒の実践力を高めていく。
- ・生徒会活動における本部役員の活動は充実しており、代替わり後も継続して取り組んでいく。
- ・規範意識の醸成をさまざまな取組のなかで意識して実践していく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・生徒会本部役員を中心とした生徒会活動の状況。
- ・道徳の評価内容や教員の認識状況。
- ・生徒、保護者アンケートの推移。

学校 関係 者評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 西陵祭（体育の部・文化の部）は、どの学年も熱心に取り組み、よく頑張り成功させたことを報告し理解いただいた。 地域行事が中止になり、中学生が地域と過ごす機会が少なく残念だ。 不登校生徒は学校とのつながりはもてているのか心配である。学校の取組を説明すると理解していただいた。 ヤングケアラーの質問があり、生徒が相談できる体制を作ってほしい。
最終評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 新本部役員への引継も、しっかりとできた。コロナ禍にあって3年生を送る会等、工夫して取り組むことができた。 生徒会本部や評議員を中心に生活習慣を見直しする取組をすることができた。 道徳では持回り道徳を活用して学年全体で協働して取り組むことができた。 アンケート結果は、肯定的回答が、「挨拶がしっかりとできていますか」については生徒 86%・保護者 83%、「相手の気持ちを考えて行動していますか」は生徒 87%・保護者 74%、「ルールを守ろうとしていますか」が、生徒 89%・保護者 80%であった。
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権学習の取組が、年間計画に基づいて実施できた。学年を中心とした指導案作成等の取組を研修会で全体化し、教員の力量や認識を高めることができた。生徒の実態にそくして、指導案を検討していく。 生徒会活動は、コロナ対応を踏まえて工夫した取組が展開でき内容の充実も図ることができた。 学校生活の様々な場面で、褒めることや活躍したり認められたりする事を、意識的にたくさん作っていき、生徒の自己有用感を高めていくことができた。 道徳の授業は計画的に実践され、学年を中心に協働して取り組むことができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校目標をかなえるために、カリキュラムマネジメントを進め、道徳の授業計画を効果的に立て、授業や行事、生徒会活動等との有機的な繋がりを深めて実施していく。 自尊感情が豊かな生徒の育成をめざして、個々の生徒が活躍できる場面やそれを仲間や教員が認める機会を大切にしていく。授業や学級活動、部活動などにおける日常の声掛けや褒めることの実践をさらに積み重ねていく。 チャレンジ体験等を活用して、キャリア教育の全体計画を見直して、職業調べや高校調べ等を実施し充実を図ることが必要である。
学校 関係 者評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく学校に通っている生徒が多く嬉しく思う。学校が楽しくないと思っている生徒への配慮や支援をしっかりやってほしい。 生徒、保護者アンケートをみると、おおむね良い結果になっていると思う。 言葉遣いやSNSの問題など、心配なことは多い。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

生徒自らが健康で豊かな生活を実現するために、必要な知識と態度の育成を目指す。

具体的な取組

- ・防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室を継続して実施し、正しい知識と自律的な行動ができるよう指導する。
- ・積極的に部活動へ参加することにより、体力と健康管理能力の向上を図る。
- ・集団的な活動や身体表現を通じて、コミュニケーション能力を育成する。
- ・保健だよりやホームページ掲載等での生徒及び保護者啓発により、基本的な生活習慣を確立させる。
- ・性に関する教育を継続して実施し、命を大切にする心の育成を図る。
- ・昼休みに体育館を開放によって、積極的に運動を行う機会をつくる。
- ・心と身体の健康を維持するために、朝ごはんを食べ、昼食（給食）を残さずに食べる食育を生徒、保護者に行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒及び保護者アンケートの結果。
「起床・食事・就寝など時間を守っていますか」
- ・部活動への参加率や各部活動の活動状況。
- ・防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室等の実施状況と感想。
- ・昼休みの体育館開放による参加者。

中間評価

各種指標結果

- ・アンケート項目「早寝・早起き・朝ごはんを実践している」に対して、肯定的回答は、生徒 53%、保護者 62%であった。
- ・部活動への入部率は、1年生 78%、2年生 76%、3年生 71%であり、部員生徒は熱心に活動している生徒も多い。
また、校外で野球やサッカーなどの活動している生徒もいる。
- ・防煙教室や薬物乱用教室、非行防止教室は、実施・実施予定である。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・「早寝早起き朝ごはん」を徹底するための食育が必要である。また、昼食については給食をとっている率は高いが牛乳をはじめ完食していない。
- ・毎日の生活における時間管理に、課題を抱える生徒が多い。基本的生活習慣の確立に向けた指導が継続して必要である。生徒の携帯所持率は高く、それに伴う使用時間の長さは、大きな課題である。
- ・部活動の運営や指導は、部活動規定や部活動ガイドラインに沿って適切に行われている。外部コーチの活用もすすんでいる。
- ・部活動に所属せずに、学校外のクラブ等で活動する生徒が一定数いるため、入部率はやや下がっている。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや食育通信、学校だより等を配布するだけでなく学校ホームページで積極的に掲載して、基本的な生活習慣の確立にむけた指導を行っていく。 ・遅刻や欠席について、家庭との連絡を引き続き確實に行っていくなかで、基本的生活習慣の確立について、保護者からの指導について働きかけをすすめる。 ・昼食の準備時間の短縮と食事時間の確保が必要である。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目の総合的な結果と分析。 ・部活動の活動状況と個々の部員生徒の様子。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起床・食事・就寝の習慣がきちんとしているなど、日々の生活習慣を整えることが大切だろう。特に、朝ごはんを食べることでいらだちや精神的な安定につながるのではないか。 ・ラグビー部やサッカー部の部員が少なくなってきたことと聞いて心配だ。 ・西陵文化まつり（地生連行事）が中止になって、とても残念に思っている。
最終評価	
	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「早寝・早起き・朝ごはんを実践していますか」に対して、肯定的回答は、生徒 60%・保護者 53%である。生活習慣の課題が大きい。 ・顧問による部活動の直接指導を学校全体として取り組んでおり、安全対策やコロナ感染対策に努め、一人一人の生徒の状況を把握して指導にあたっている。部活動により、活動の活発さに差がある。
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活の確立が大きな課題である。 ・性に関する学習は講師を招いて実施することができ、生徒にとって大切な学習になった。 ・防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室等は、学校行事等との調整をして実施することができた。優れた講師のおかげもあり生徒は熱心に取り組めた。 ・保健だより等を学校ホームページに掲載することで、食事や家庭での生活の安定のために必要な情報や知識の提供を工夫していく。朝ごはんを家庭で食べてくることが、できない家庭がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導は、顧問の直接指導を継続し、生徒の安全や事故防止、感染対策に努める。 ・基本的な生活習慣・規則正しい生活の確立を意識して、保護者との信頼関係の構築と日常的な連携をすすめる。家庭と協力した指導をすすめる。特に、朝ごはんや早寝は保護者啓発が大切である。 ・各種教室の充実した内容を継続するとともに、実施時期について他の取組等との日程も踏まえ、効果がより期待される時期での実施について検討・計画する。 ・食育だよりや保健だより等を十分に活用して、学級における終学活等の時間を活かして、生徒の生活安定を図る指導を充実していく。
学校 関 係 者	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の指導の様子、コロナ対応等について説明し、理解いただいた。 ・家庭生活の安定が大切だ。保護者が子育てをしっかりと行い、朝ごはんを作って子どもに食べるようになるに。

評価	<ul style="list-style-type: none"> 防煙教室や非行防止教室、性に関する学習の取組内容等を聞くと、引き続き充実した内容ですすめていってほしいと思う。
----	---

(4) 学校独自の取組

重点目標	<p>小中一貫教育を推進する。</p>
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から1小1中になり、令和7年度小中一貫校創立に向けて、小中校長会や小中連携会（主任会）を定期的に開催し、新校開校に向けて準備を進めて行く。 学習確認プログラム、全国学力学習状況調査結果を分析し、課題を明らかにして有効活用する。 小中合同研修会の開催を通して、教職員の資質・能力の向上に努める。 ブロック各校の研究授業に参加し、授業研究を推進して指導力の向上を図る。 中学校授業体験や児童・生徒会活動等、小学生と中学生の交流の取組を進める。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育の推進に係る主任会議や合同研修等の実施と内容、教職員の認識状況。 授業研修会の実施と小中交流の取組。 小中一貫した学力分析の結果を生かした取組の改善。

中間評価

自己評価	<table border="1"> <tr> <td style="width: 5%;">各種指標結果</td><td> <ul style="list-style-type: none"> 小中校長会を月1回のペースで定期的に開催して小中一貫教育の推進を図っている。 小中合同研修会や夏季合同研修会が開催できた。夏季合同研修会では、初代向島秀蓮小中学校の吉川先生を講師に招いて、講演していただき、令和7年度新校開校に向けて教職員の意識付けになった。 小学校授業研究会に中学校も参加予定である。児童生徒の小中交流会は、1月実施で企画している。 </td></tr> <tr> <td>分析（成果と課題）</td><td> <ul style="list-style-type: none"> 小中合同の会合を対面で実施でき、お互いをもっと知ることが課題であることを再認識した。 定期的な開催に止まっているが、校長レベルでは各校の詳しい状況が共有できている。教職員への周知が課題である。 ブロック事務担当者会議が定期的に開催され、就学援助や預り金事務をはじめとした小中連携が充実してきている。 養護教諭では、先進の小中一貫校に視察して、開校の準備を進めている。 小中一貫教育校創設に向けて、創設協議会、PTA代表者会議等、市教委と連携しながら着実に取組がすすんでいる。 </td></tr> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td><td> <ul style="list-style-type: none"> 小中連携については、開校に向けて教職員に意識を高め具体的な準備をすすめていく。 各種調査の結果分析を活用した授業改善等の学力向上の取組をよりすすめる。 児童生徒が交流する行事に計画的に取り組み、児童生徒の自己有用感を高める。 </td></tr> <tr> <td>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</td><td> <ul style="list-style-type: none"> 小中校長会や主任会議の実施と内容、教職員の認識状況。 </td></tr> </table>	各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> 小中校長会を月1回のペースで定期的に開催して小中一貫教育の推進を図っている。 小中合同研修会や夏季合同研修会が開催できた。夏季合同研修会では、初代向島秀蓮小中学校の吉川先生を講師に招いて、講演していただき、令和7年度新校開校に向けて教職員の意識付けになった。 小学校授業研究会に中学校も参加予定である。児童生徒の小中交流会は、1月実施で企画している。 	分析（成果と課題）	<ul style="list-style-type: none"> 小中合同の会合を対面で実施でき、お互いをもっと知ることが課題であることを再認識した。 定期的な開催に止まっているが、校長レベルでは各校の詳しい状況が共有できている。教職員への周知が課題である。 ブロック事務担当者会議が定期的に開催され、就学援助や預り金事務をはじめとした小中連携が充実してきている。 養護教諭では、先進の小中一貫校に視察して、開校の準備を進めている。 小中一貫教育校創設に向けて、創設協議会、PTA代表者会議等、市教委と連携しながら着実に取組がすすんでいる。 	分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携については、開校に向けて教職員に意識を高め具体的な準備をすすめていく。 各種調査の結果分析を活用した授業改善等の学力向上の取組をよりすすめる。 児童生徒が交流する行事に計画的に取り組み、児童生徒の自己有用感を高める。 	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 小中校長会や主任会議の実施と内容、教職員の認識状況。
各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> 小中校長会を月1回のペースで定期的に開催して小中一貫教育の推進を図っている。 小中合同研修会や夏季合同研修会が開催できた。夏季合同研修会では、初代向島秀蓮小中学校の吉川先生を講師に招いて、講演していただき、令和7年度新校開校に向けて教職員の意識付けになった。 小学校授業研究会に中学校も参加予定である。児童生徒の小中交流会は、1月実施で企画している。 								
分析（成果と課題）	<ul style="list-style-type: none"> 小中合同の会合を対面で実施でき、お互いをもっと知ることが課題であることを再認識した。 定期的な開催に止まっているが、校長レベルでは各校の詳しい状況が共有できている。教職員への周知が課題である。 ブロック事務担当者会議が定期的に開催され、就学援助や預り金事務をはじめとした小中連携が充実してきている。 養護教諭では、先進の小中一貫校に視察して、開校の準備を進めている。 小中一貫教育校創設に向けて、創設協議会、PTA代表者会議等、市教委と連携しながら着実に取組がすすんでいる。 								
分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携については、開校に向けて教職員に意識を高め具体的な準備をすすめていく。 各種調査の結果分析を活用した授業改善等の学力向上の取組をよりすすめる。 児童生徒が交流する行事に計画的に取り組み、児童生徒の自己有用感を高める。 								
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 小中校長会や主任会議の実施と内容、教職員の認識状況。 								

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が交流する取組の内容とその成果。 ・各校とブロック全体での学力向上の取組の結果と成果。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育校創設の取組がすすんでいる。 ・小中の連携はとても大切だと考えている。 ・生徒の地域行事等への参加に関して、学校との連携をより密にしていきましょう。 ・新校への期待は高く地域のシンボルになるような学校をお願いします。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中校長会は、月1回ペースで定期的に開催して小中一貫教育の推進を図っている。 ・小中教務主任会は、情報交換等をおこなうことができた。 ・小学6年生対象の中学校紹介・交流会は、中学校生徒会本部が充実した内容で企画実施できた。 ・行事の調整や授業研究の交流、教職員の研修等に取り組んだ。 ・小中の校長、教務主任、研究主任で、お互いの学力の分析を報告することができた。
自己 評 価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会を、開催することができた。 ・年間を通して、小中校長会は定期的に開催し、小中一貫教育校の創設に向けた検討も含めて、連携をすすめることができた。 ・ブロック事務担当者会議が定期的に開催され、就学援助や預り金事務をはじめとした小中連携が充実してきている。 ・教務主任会は、適宜必要に応じた形で実施した。 ・小中一貫教育校創設に向けて、創設協議会やPTA代表者会議等、市教委と連携しながら着実に取組がすすんでいる。地域と連携して通学路の検討や安全対策について取り組み、創設協議会から関係部署への要望書提出等を行った。 ・新校の校名の地元案が決定した。「京都市立洛西陵明小中学校」
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会の開催を年度の早めに実施し、内容を具体化して各校・各教員の実践にむすびつけていく。 ・ブロック内での授業参観等へ教員が参加できる条件を整えて、交流と指導力向上を図る。 ・校長会の定期的な開催を継続し、各校やブロックの実態把握や情報交換を行い、各校に持ち帰って教職員の意識を高める。9年間でつけたい力やそのための取組の具体化を図り、各校での取組と交流を推進する。 ・教務主任、研究主任会の開催を計画的にすすめ、学力向上を軸にした取組を発展させる。 ・様々な内容について令和6年度より試行できるように準備を進めていく。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会として、小中一貫校創設に向けて学校を応援していく。 ・今年は地域行事が少なくて残念だった。今後も、小中学生が参加できるよう学校行事を調整してほしい。中学生の力を借りたいものもあるので、引き続き協力をお願いしたい。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標

教職員が日々の生活の質や人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもに対して効果的な教育活動を行う。

具体的な取組

- ・効果的な教育活動が行われているか検証する。
- ・会議の効率化をすすめ、時間を区切った開催にする。
- ・センターサーバ等によるデータ管理と活用をすすめて、仕事の効率を高める。
- ・校務支援員の活用を図る。
- ・電話応対時間を午後6時30分までとし、7時30分までに退校する。
- ・統一時刻閉鎖日を水曜日として、午後7時までに退校し、自らの人間性や創造性を高める時間を創る。
- ・働き方改革に関する研修を実施し、教職員の意識を高める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員の時間外勤務時間の状況。
- ・個別面談等による教職員の意識把握。
- ・校務支援員の活用状況。

中間評価

各種指標結果

- ・働き方改革に関する教職員の意識は一定高まり、自己の時間管理を意識して時間外勤務時間を減らしている教職員が増えている。
- ・時間外勤務時間の多い教員が、固定してきている傾向にある。
- ・校務支援員は教職員に好評であり、印刷や配布物作成・配架等、大いに活用している。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・働き方改革に関して、教職員の意識は高まり、時間外勤務時間の減少はあるが、一部の固定された教員への働きかけや具体的な方策が課題である。
- ・校務支援員は、教職員の負担軽減につながっている。
- ・電話応対時間や退校時刻に関して、保護者や地域の理解は得られていると思われる。
- ・個々の教職員の意識や課題について、管理職が十分に理解する機会を確保し、仕事の平準化や効率化を組織としてすすめることが必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・校内の取組の精選と部活動がない土日祝の学校開放時間を厳格化する。
- ・校務支援員について、今後もより有効に活用していく。
- ・学校全体として教職員の負担感も考慮して、仕事の平準化を図る。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・時間外勤務の実態と教職員の意識の状況。
- ・校務支援員の活用状況。

学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革について、これまでの取組や現状を説明し理解いただいた。 ・人材確保のためにも働き方改革は必要だととの意見をいただいた。
最終評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の時数は、完全下校の時間が冬時間になり、退勤時間が早くなつた。 ・時間外勤務が多い教職員はほぼ固定されている。 ・周りに合わせて遅くまで職場に残っている教職員はほとんどいなくなり、自分のペースで仕事にあたつている。 ・校務支援員が、積極的に教職員に声をかけてくれるので、教職員も仕事が頼みやすく、多いに活用できている。
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の縮減に関しての教職員の意識は高まっている。時間を意識して仕事をするようにしている教職員がほとんどとなっている。 ・働き方改革に関する保護者・地域の理解や学校運営協議会の理解が得られている。 ・職員会議の時間設定に取り組み、教職員の運営協力もすすんだ。 ・校務支援員の配置と活用は、効果をあげている。 ・土日の部活の時間が課題である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校閉鎖時刻を明示して、時間を意識した働き方をより推進する。 ・管理職が、個々の教職員の意識や課題について十分に理解する機会を確保し、仕事の平準化や効率化をすすめる。 ・時間割内に設定している会議時間の確保や運営等の工夫を継続する。 ・校務支援員を最大限に活用できるよう、個々の教職員が仕事や依頼等を計画的にできるように助言していく。 ・部活動指導員や技術指導者の活用をすすめる。 ・生徒の下校時間を早め、教職員の勤務時間に合わせることで時間外勤務の減少に努める。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この数年進めている働き方改革の必要性やそれをすすめることによって、今後の優秀な教員確保につながることについて理解をいただいている。 ・先生たちには元気で働いてほしいとの意見をいただいた。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

生徒観察や教育相談・アンケート等あらゆる機会を捉えて実態把握と情報共有を共に、いじめに対する生徒の認識を高める取組をすすめる。

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」と同じ

(取組結果を検証する) 各種指標

- 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。
- 生徒は相手の気持ちを考え行動し、毎日楽しく登校している。
- 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。
- 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

中間評価

各種指標結果

- 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を大まかには理解しているが、細部までは理解が不十分なところがある。担任や部活動顧問だけでなく、組織的には対応している。
- いじめ対策委員会のメンバーを各クラスで伝えた。
- 学校評価における生徒アンケートと保護者アンケートでは、「毎日楽しく登校していますか。」に対して、肯定的回答が生徒 86%・保護者 89%、「相手の気持ちを考え行動していますか」に対して、同生徒 91%・保護者 87%であった。
- 生徒アンケートの「私は、私のことを家の人に話したり、相談したりしている。」の項目で、よくできている 31%、大体できている 34%、あまりそう思わない 24%、できていない 11%であった。
- 学校ホームページに、学校いじめの防止等基本方針を公開して周知すると共に、ほぼ毎日学校の取組を掲載するとともに、毎月の学校だよりの発行や学級通信による情報発信を行っている。

自己評価

分析（成果と課題）

- 全教職員が、学校いじめの防止等基本方針を理解し組織的対応に努めているが、生徒・保護者の訴えや相談内容を十分に認識できていない教職員がいるという課題がある。
- 生徒の実態としては、校内では大きなトラブルなく一定の落ち着いた学校生活を送ることができている。小規模校のため、全教職員が学年を超えて全校生徒と関わりやすいため、日常的に教員から生徒への声掛けに心がけている。一方、いじめ問題への深い理解や保護者・地域への説明・周知については、不十分なことがあるので、取組の改善が必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- 全教職員の基本方針の理解や組織的対応について、常に丁寧な取組を継続していく。いじめに関する認識の深化のための研修もすすめる。情報共有については、迅速に学年主任や生活補導係が個々の教職員への情報提供や働きかけについて、より丁寧に行うよう努め、定期的な全体会議や学年会で確認していくことを心掛けていく。
- また、学校いじめの防止等基本方針を保護者に説明・周知する場面や機会を増やすことが必要である。生徒に対して、いじめについての学習や学校としての組織的対応について、丁寧な説明等をとおして理解を深めていくよう努める。

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は相手の気持ちを考えて行動し、毎日楽しく登校している。 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 本年度の教育課程・学校行事や各種取組、生徒の様子について詳細に説明を行い、理解いただいた。
- 地域で騒いでいる生徒もいたが、大きな問題行動もなく、見守っていただいている。
- 自分からあいさつができる生徒が増えてきた。
- 今年も地域行事も中止・規模縮小となり、楽しみが少なく残念に思っている。コロナ禍が早期に解決することを願うばかりだ。引き続き、みんなで感染防止に努めていきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- 各クラスで担任から伝えて、困ったときは担任だけでなく相談窓口が複数あることを強調した。
- 学校評価における生徒アンケートと保護者アンケートでは、「毎日楽しく登校していますか。」に対して、肯定的回答が生徒 92%・保護者 88%、「相手の気持ちを考えて行動していますか。」に対して、同生徒 87%・保護者 74%であった。
- 学校ホームページに、年度当初に学校いじめの防止等基本方針を公開して年間を通して掲載を続けると共に、学校の取組ができるだけ頻繁にホームページにあげて、学校や生徒の様子を発信している。また毎月の学校だよりの発行や学級通信による情報発信を行っている。学校運営協議会においては、学校の取組をていねいに説明し意見交換を行った。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- 学年主任を核に生徒指導主任と生活補導係が中心となり、報告・連絡・相談と情報共有に努めてきた成果は認められるが、個々の教員までのていねいな共有については課題として残る。
- 相手の気持ちを考えて行動していると考えている生徒や保護者が増えており、毎日楽しく登校している生徒やそう感じている保護者は多数であり、一定評価できると考える。が、不登校生徒が多い課題をしっかりと認識しなければならない。
- 生徒は大きなトラブルはなく、落ち着いた学校生活を送ることができた。友人間のトラブルはときどきあったが、担任を中心とした迅速な指導・対応ができた。
- 小規模校であることからも、全教職員が学年を超えて全校生徒と関わりやすいため、日常的に教員から生徒への声掛けに心がけて実践できた。

分析を踏まえた取組の改善

- 情報モラル教室などを活用してSNSのトラブルを減少していきたい。
 - これまでの取組を全教職員で共有して継続していく。年度当初から全体で共通理解している生徒の実態把握と情報共有を大切にし、日常の情報共有について、学年主任や生活補導係が連携して、個々の教職員への情報提供や働きかけについて、より丁寧に行うよう努め、学年会や全体会議で確認していく。
 - 教職員のいじめに関する認識の深化のための研修もすすめる。
- また、学校いじめの防止等基本方針を保護者や生徒に説明・周知する場面や機会を増やす計画を立て、工夫した取組をすすめていく。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校が楽しいと感じている生徒や保護者が多くて安心している。学校に来にくい生徒への配慮や家庭への支援を大切に続けてほしい。</p> <p>素直な生徒が多く、声をかけると気持ちよく挨拶が返ってくる。元気にあいさつできる生徒を育てたい。一方で、言葉遣いやSNSの問題など、心配なことは多い。</p> <p>小中一貫教育校の創設を念頭に置いて、小学校から9年間を通した取り組みや行事、学習の継続性や発展性について考えて、整えていくことが大事だろう。</p>